

中国 IT 市場 ナビゲーター

(90) ネットで購入、新鮮・安全な農産物

野村综研(上海)咨询有限公司

中国で近年、農産物の安全問題が取り上げられることが多くなっており、新鮮で安全な食材の入手は普段の生活の中で一般消費者の大きな関心事となっている。半面、悪天候や人為的な障害で販路が閉ざされ、生産・提供する側の農民や農村合作社（日本の生活協同組合に相当）が多大な損失を被ることも少なくない。

農産物の提供者と消費者の双方にとって便利で信頼性の高い新しい流通チャンネルが最近形成され、注目されている。B to C（企業と消費者の取引）型電子商取引（EC）のプラットフォーム「菜管家」である = 写真。上海農信电子商务有限公司が2009年末にインターネット上で公開（<http://www.962360.com/>）し、新鮮かつ安全な食品を求める消費者と販路を広げようとする生産者の双方に大きな反響を呼んだ。



◇農産物ECビジネスを切り開く「菜管家」

「菜管家」は信頼性を高めるための三つの要素を提唱している。

まず安全な農産物の調達ルート確保である。安全かつ新鮮な農産物の確保と検査は、消費者から信頼を得る第一歩となる。ECの運営経験があって農業に詳しい人材を経営層に起用しているほか、「食品安全認可証」「検査検疫証明書」「绿色食品（有機食品）認証」などの国家規定を用い、取り扱う農産物の安全を厳密に確認している。

次に生産・加工・保存における管理の仕組みの構築である。専門部隊を社内を設置し、生産・加工・保存・出荷などの各段階での監視体制を整えたほか、外部の専門家や関連団体と提携し、鮮度と安全を保つ管理基盤を形成しているという。

最も重要な最後の要素は、新鮮な農産物をいかにして消費者に届けるかであり、物流ネットワークを持つことである。「菜管家」は上海周辺向けの配送網しかまだ構築できていないが、物流過程である配送設備や保管倉庫の状態を農産物の種類に応じて厳密に管理できる専用システムを構築している。

このような品質管理の仕組みが提供者と消費者から徐々に信頼を得て、取り扱い商品数は試用期間の6ヶ月間で318から1841へと増加、月間の取引金額は3018元から200万元に伸びたという。

◇新たなビジネスチャンス期待

「菜管家」は全国への事業拡大に備え、物流ネットワークと調達システムを今後構築しようと計画しており、中国の農産物ECビジネスを拡大しようとしている。この市場にかかわる関連ベンダーやサービス企業にとっても、「菜管家」のビジネスモデルは新しいビジネスチャンスを生み出す可能性があるだろう。全国展開に向けての安全監視システム構築、全国各地向け物流ネットワークや専用輸送設備の充実が求められていることに伴い、例えばシステム開発や農産物輸送のノウハウを持つ物流サービス業の登場が求められることになるだろう。

（主任コンサルタント・黄曉春）